

【意見 19-8】 横浜国際プールの利用方法の一本化について
 横浜国際プールの web ページにおいて施設概要が公表されている。

横浜国際プールの web ページより抜粋

正式名称	横浜国際プール（愛称 WATER ARENA ウォーターアリーナ）
開館日	平成 10 年 7 月 4 日（土）
所在地	横浜市都筑区北山田 7 丁目 3 番地 1 号
規模・構造	地上 3 階地下 2 階 鉄筋コンクリート造

市民の健康増進や体力づくりはもとより国際級の大会をはじめとする各種大会の開催や、選手・指導者の養成など幅広く活用できる 350 万都市横浜にふさわしい室内総合競技場として建設されました。

メインプールは、約 4,000 席の観客席を擁する国内最大級の国際公認プールであり、また冬季においては、床にパネルを組み立て、スポーツフロアとして、テニスやフットサルなど様々な競技が実施できます。

指定管理者からの聞き取りによると、現状、横浜国際プールでは、FINA（国際水泳連盟）主催の国際大会は実施できないとのことである。

20 年ほど前になるが、2002 年パンパシフィック水泳大会、ジャパンパラ水泳競技大会など、国内外のさまざまな大会が開催されてきた。しかし、現在、FINA 主催の国際大会を開催するための要件の一部を満たしていない。具体的には、計測器にオメガ製を使用する必要があるが、横浜国際プールではオメガ製を利用していないこと、また、基本席数が 4,000 席で増設対応可能となっている観客席の構造が、国際大会実施の要件を満たさないことなどが理由である。

また、web ページにも掲載されている通り、冬季期間中にメインプールは使用せず、体育施設として利用するため、2,200 万円ほどの費用をかけ（工事期間 1 か月）、床にパネルを組み立て、バスケットボール仕様にするとのことである。夏季においては、プールでの利用に戻すため、再度 2,900 万円ほどの費用をかけ（工事期間 1 か月）、プール仕様に戻すとのことである。

大会誘致等以外にも、プールの個人利用やスポーツ教室・カルチャー教室等を展開し、施設運営を行っているとのことであるが、横浜国際プールを建設した趣旨が、多くの国際大会を開催し、経済的にも地域の発展に貢献するということであるのに対し、現状では、国際大会は実施できず、また、年間 5,100 万円ほどの費用をかけて、年の半分はプール利用、もう半分は体育館として利用を行っており、床転換時には 2 か月の工事休館による機会損失が発生している。

横浜国際プールの建設当時の目的に反するだけでなく、年間 5,100 万円という膨大な費用をかけてプールと体育館を入れ替えるというのは、経済性という点からも明らかに合理性がないといわざるを得ない。費用対効果を勘案した上でプールか体育館に一本化するよう提案する。